



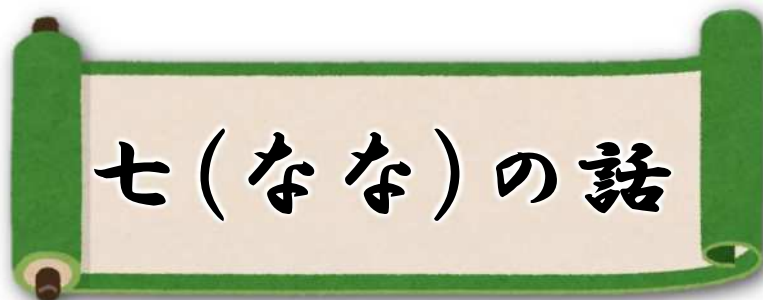
北区の部屋だより

2025年2月第186号



刊行物登録番号 5-2-167

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL03-5993-1125 令和7年2月発行



漢字の読み方というのは難しいもので、音読み、訓読みといった別に加えて、それぞれいく通りもの読み方があったりして何と読むのが正しいのか迷うこともしばしばです。私事で恐縮ですが、かつて歴史の勉強を始めたころに漢数字の「七」を「なな」と読んだところ、「しち」と読むようにと正されたことがあります。そのときは「へえ～、そうなんだ」と思いつつ、それでも癖で「なな」と読んでしまうことも多く、その都度「しち」って読まなきゃいけないんだっけ…と気にしていたものです。

それからうん十年が経過し、私自身、江戸時代の資料を読む機会が増えるなかで、「七」については「なな」と読んでも問題なし、それどころか「なな」と読まなければいけない場面もあることがわかってきました。

江戸時代に作成された^{じかたしよ}地方書(※農政全般にわたる解説的^{じかたはんれいろく}手引書)に『^{だいかん}地方凡例録』という資料があります。代官などの支配役人が村を管理、運営していく上で心得ておくべき事柄などを解説している本で、江戸時代の最も有名な地方書といっている本で、江戸時代の最も有名な地方書といっている資料です。その中に田畑の面積を記録する際の書き方や文字について記している項目(原文は「^{たはたせぶもじしよほうのこと}田畑畝歩文字書法之事」)があるのですが、そこに「^{いんずう}員数の七の字ハな」と読むこと^{じかた}地方の^{つうほう}通法なりとあって、「七」の字については「なな」と読むことが村方では一般的であると記しているのです。

そして、それには理由があって「四と七の^{こえに}声似たるゆへ間違へ^{まちが}算^{かぞえちが}違ひ等のなきためなり」として、四(し)と七(しち)の読み方が似ていて間違いを起こさないよう、あえて「なな」と読むようにしているというのです。これを見たとき、「なんだ、『なな』でもいいんじゃない」と思うと同時に、やっぱり「しち」と読む方が一般的なのかも再認識した次第です。

これからも私は江戸時代の古文書を読む際、「七」を「なな」と読むことがいく度となくあるかと思っています。次にまた「しち」と読んだ方がいいと正されたときは、「すみません、江戸近郊の農村の史料ばかり読んでるので、どうしても「なな」って読む癖が抜けなくて…」などと言い訳しようかとも思っています。

ちなみに、^{にほんこくごだいじてん}『日本国語大辞典』(小学館)によれば、「七」を「なな」と読むこと自体は、^{こじき}『古事記』や^{まんようしゅう}『万葉集』でも確認できる、古くからの読み方であるそうです。

(地域資料専門員 保垣孝幸)



北区の部屋
今月の展示

「北区にかかる旧荒川
(新河岸川・隅田川)の橋」



■展示期間 1月24日(金)～2月26日(水)

■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

北区の歴史を語る上で欠かすことのできない旧荒川。現在は河川改修などによって新河岸川や隅田川となっています。北区域に限ってみれば11の橋が架かっていますが、橋が架けられた時代やその経緯は様々です。今回の展示では、こうした旧荒川に架けられている橋について紹介します。

講演会・講座 開催のお知らせ

歴史講演会

「北区域の紡績業と渋沢栄一
～下野紡績株式会社をめぐる～」

明治41年(1908)、現在の北区堀船地区に下野紡績株式会社王子分工場が設立されました。下野紡績(株)をめぐる人々や諸会社と渋沢栄一との関わりに注目しながら、北区域の紡績業と栄一についてお話しします。

【企画・運営】北区図書館活動区民の会

■日時 2月22日(土)午後2時～4時

■講師 公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館館長 桑原 功一氏

■申込締切日 2月7日(金)

公開歴史講座「北区の旗本」

北区域の村々に所領(知行所)を持っていた旗本を取り上げ、地域の村々とのようなかかわりを持っていたのか、専門家がわかりやすくお話しします。

■日時 3月8日(土)午後2時～4時

■講師 地域資料専門員 保垣 孝幸

■申込締切日 2月21日(金)

★はがき記入例★

【返信面表面】

申し込む方の
郵便番号
住所
氏名

【往信面裏面】

講座名
郵便番号・住所
氏名(ふりがな) 年齢
電話番号(FAX番号)
その他必要事項

＝ 以下、共通 ＝

★会場 中央図書館3階ホール

★定員 対象 40名(抽選)

★対象 中学生以上の区内在住・在勤・在学の方

★申込方法 往復はがき(記入例参照)で締切日(必着)まで。

※視覚障害のある方は電話申し込み可※聴覚障害のある方はファクス申し込み可※障害のある方で付添いを必要としている方は付添人1名まで可(申し込みの際にその旨ご記入ください)。※会場にはヒアリンググループ補聴援助システムが設置されています。

★申込・問合せ先 〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館図書係
TEL5993-1125 FAX5993-1044

耳マーク



小学生向けワークショップ

「親子で探検! 中央図書館ナイトツアー」
を開催しました!

1月12日(日)「親子で探検! 中央図書館ナイトツアー」(企画・運営: 図書館活動区民の会)を開催しました。あかりの消えた図書館の中で色々なミッションにチャレンジしたりしながら、赤レンガ図書館のひみつを解き明かしていき

ました。参加した方からは「図書館が大好きなので、普段知ることのできない裏側をのぞくことができ、大変ありがたかったです」「夜というシチュエーションの特別感でテンションも上がり宝探し要素もあり、すごく楽しく学べました」などのご感想をいただきました。

